

発 刊 に 寄 せ て

玄関前のケヤキの下には、センターの基本理念を表した「拓究創支」の石碑があります。開所以来多くの所員や研修員が集い、また散じて人が変わっても、この基本理念は変わらず、センターは常に静岡の教育を「拓く」、「究める」、「創る」、「支える」存在であり続けることを願ってまいりました。

さて、昨年7月に初の教育振興基本計画が策定されました。これは改正教育基本法の理念を具体的に実現するため、10年先を見据えた5年間の計画を策定したものです。義務教育修了までにすべての子どもに自立して社会で生きていく基礎を育てることと、社会を支え発展させるとともに国際社会をリードする人材を育てることを目指しています。

本県においても、昨年10月に有識者による「理想の学校教育具現化委員会」の提言がまとめられました。この提言では、一人一人の子どもが様々なかかわりの中で、それぞれの資質・能力を伸ばし、社会性を身に付ける学校教育の実現を目指して、42の施策実行を提案しています。これを受けて、本県教育の全体像を構想しながら優先順位を付けて今後の教育施策に反映させていくこととなります。

国と本県で共通することは、先が見通しにくい時代だからこそ、5年後、10年後まで変わらず必要とされる人間像を明らかにした上で、人づくりを進めていこうとしている点です。センターは、こうした人づくりを進めていくために、本県教育のシンクタンクとしての役割があると自覚しています。その役割を果たすためにも「拓究創支」の理念を常に意識し続け、研究や研修を実施することが大切です。

今回の紀要に掲載する4本の研究は、人づくりを進めるために行っている各学校の教育活動の実際に的確に応えようとしたものです。ぜひ御一読の上、忌憚のない御意見・御感想をお寄せください。

平成21年3月

静岡県総合教育センター
所 長 山 本 健 二